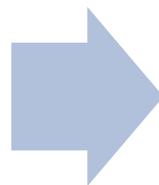


「学習内容・科目選択と将来所得」

RIETI ファカルティーフェロー
神戸大学特命教授・京都大学特任教授
西村和雄

独立行政法人経済産業研究所「活力ある日本経済社会
構築のための基礎的研究」

大学入試で
「数学」を受験
したかどうか



現在の
「労働所得」

主要3私立大学・経済系学部出身者2239名を分析対象

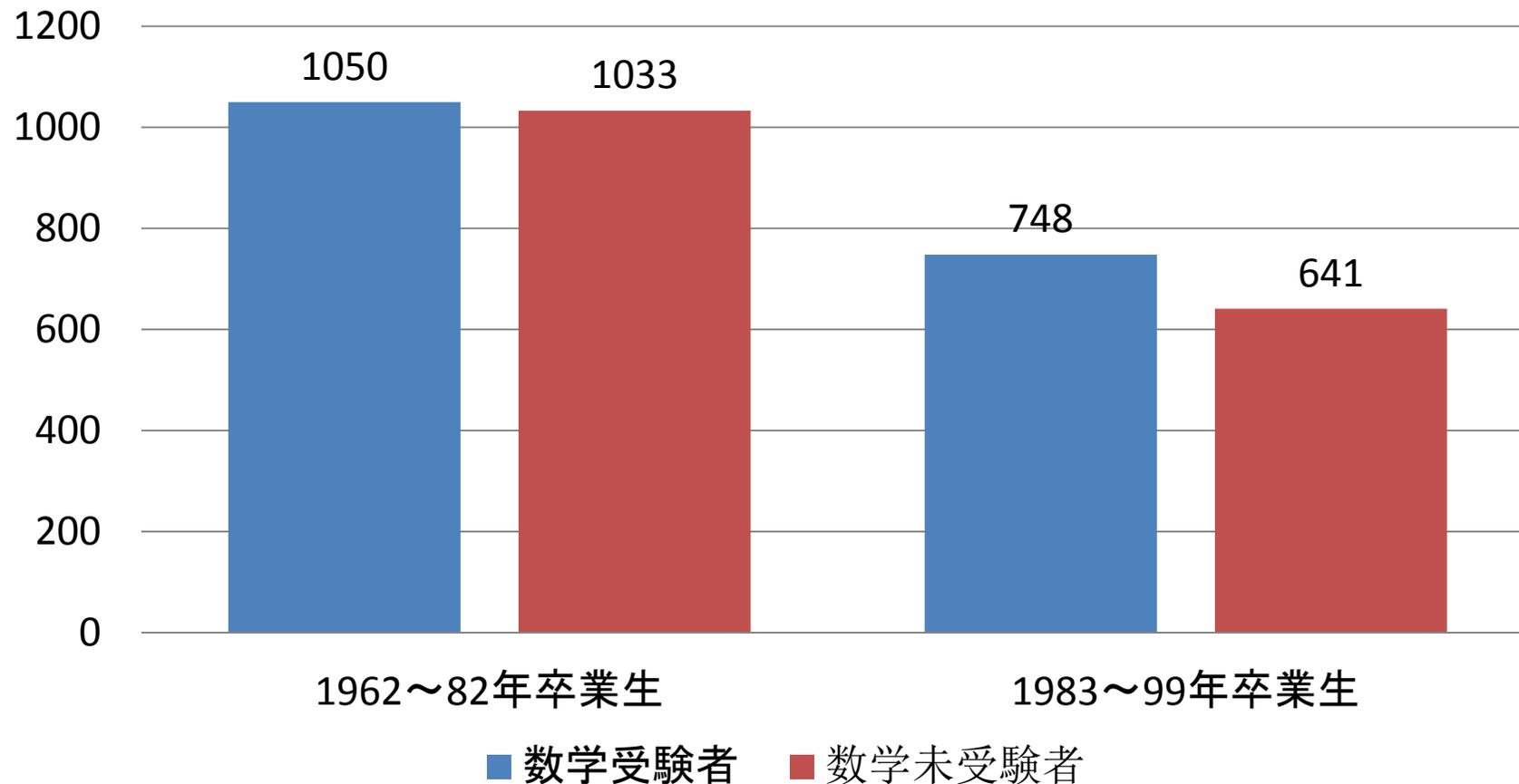
【論文】浦坂純子・西村和雄・平田純一・八木匡[2002]

「数学学習と大学教育・所得・昇進」

『日本経済研究』(日本経済研究センター)46号, pp.22-43

2000年調査：数学受験・未受験と所得

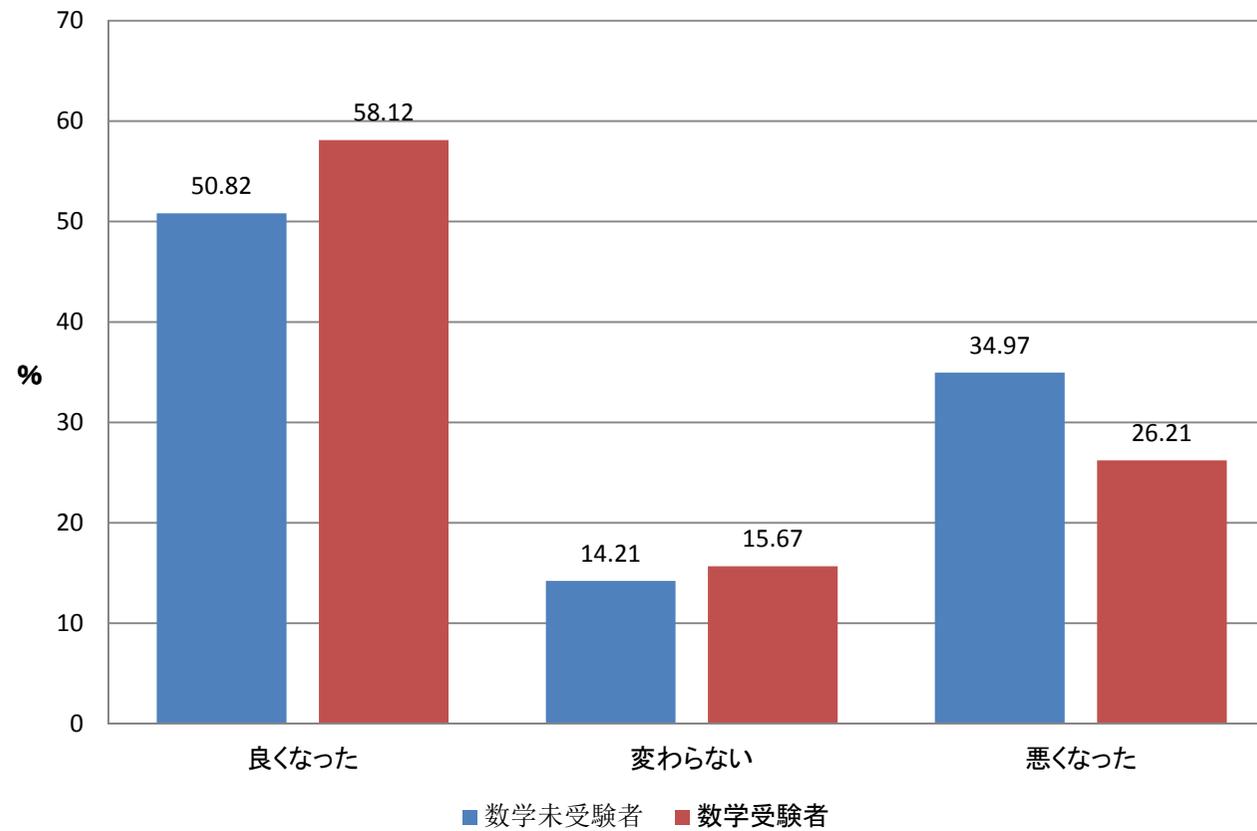
3



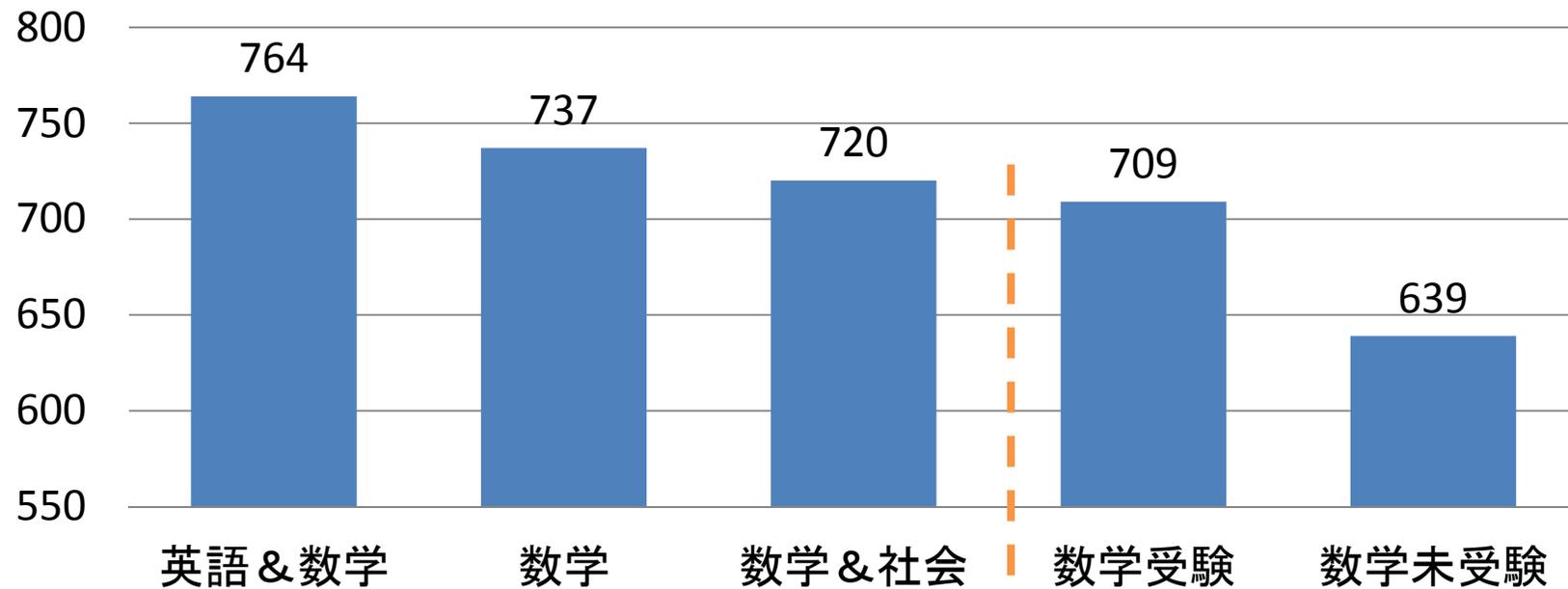
【論文】浦坂純子・西村和雄・平田純一・八木匡[2002]

「数学学習と大学教育・所得・昇進」

『日本経済研究』(日本経済研究センター)46号, pp.22-43



(1983年～卒業生：万円)

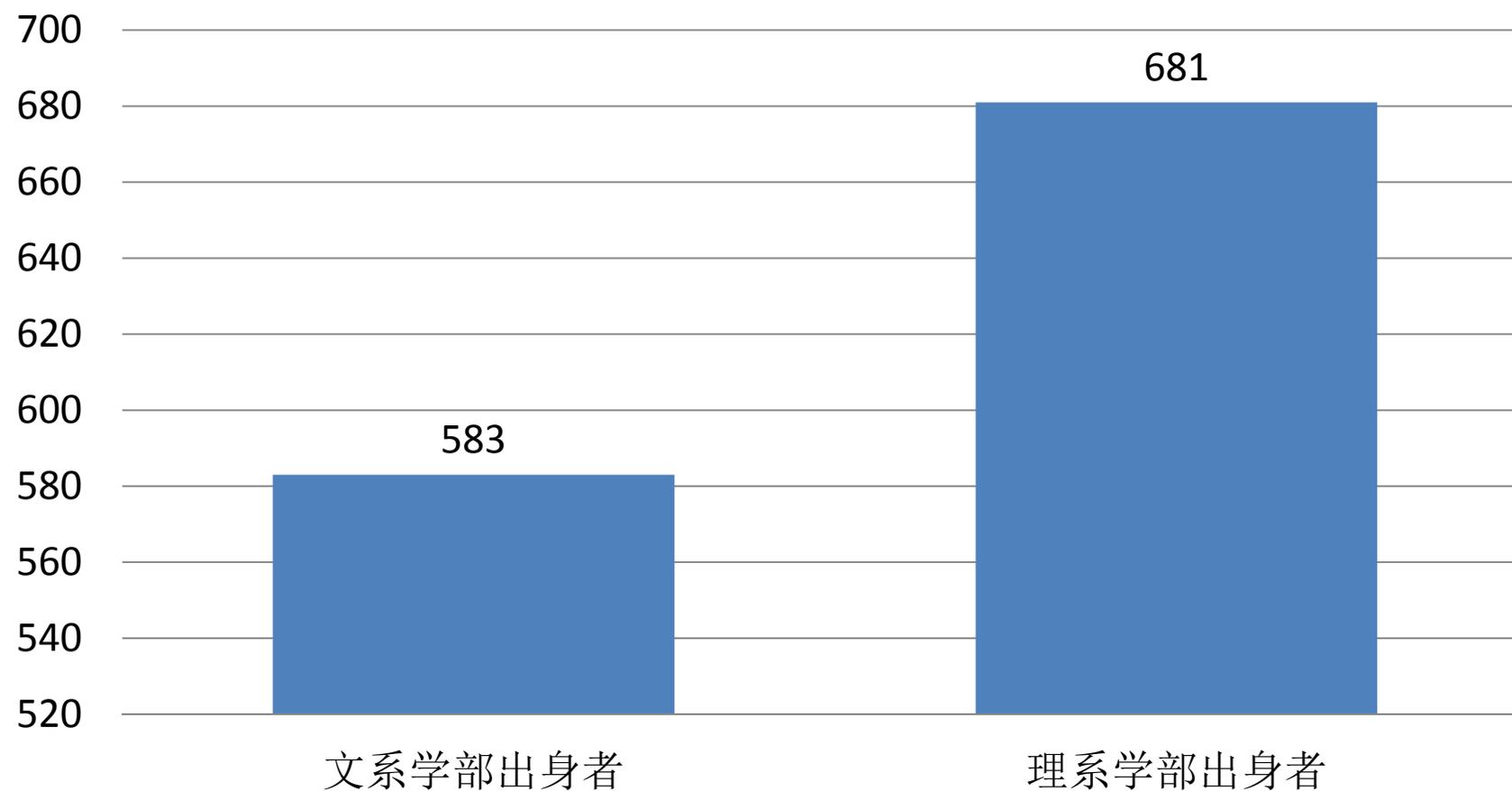


Hirata, J., Nishimura, K., Urasaka, J., & Yagi, T. (2006). Parents' Educational Background, Subjects "Good-At" in School and Income: An Empirical Study. *The Japanese Economic Review*, 57(5), pp.533-546.

- 「文系学部出身者は、理系学部出身者よりも高所得である」という通説は正しいか

プロジェクト	「人材育成に関するアンケート調査」
実施時期	2008年6月
調査方法	WEB調査(Gooリサーチによる)
配信数	6870サンプル (大卒以上の学歴を持つサンプルにのみ配信)
有効回答数	2152サンプル
回収率	31.3%
分析対象	有所得の就業者1611サンプル

出身学部別平均所得(万円)



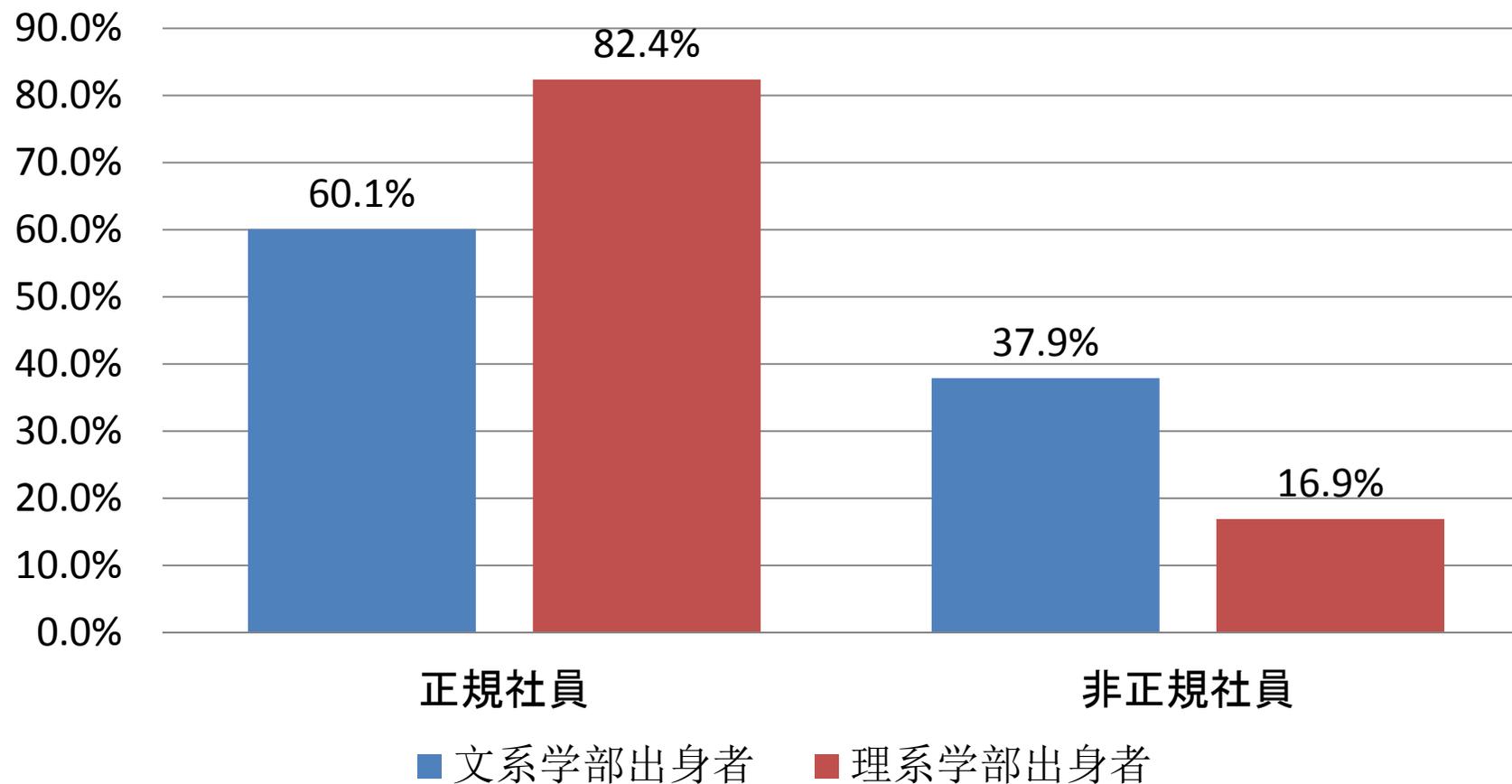
- 理系学部出身者の所得
 - 全ての入学難易度で文系学部出身者より高い
- 入学難易度による所得の大学間格差
 - 文系学部出身者 > 理系学部出身者
- 難易度Aの文科系学部出身者で数学を受験していない者と、難易度Bの理科系学部出身者を比較すると、後者の所得が全ての年齢で高い。

Hirata, J., Nishimura K., Urasaka J. and Yagi T. (2013), “Mathematics & Science Education and Income: An Empirical Study”, *Journal of Reviews on Global Economics*, 2, 1-8.

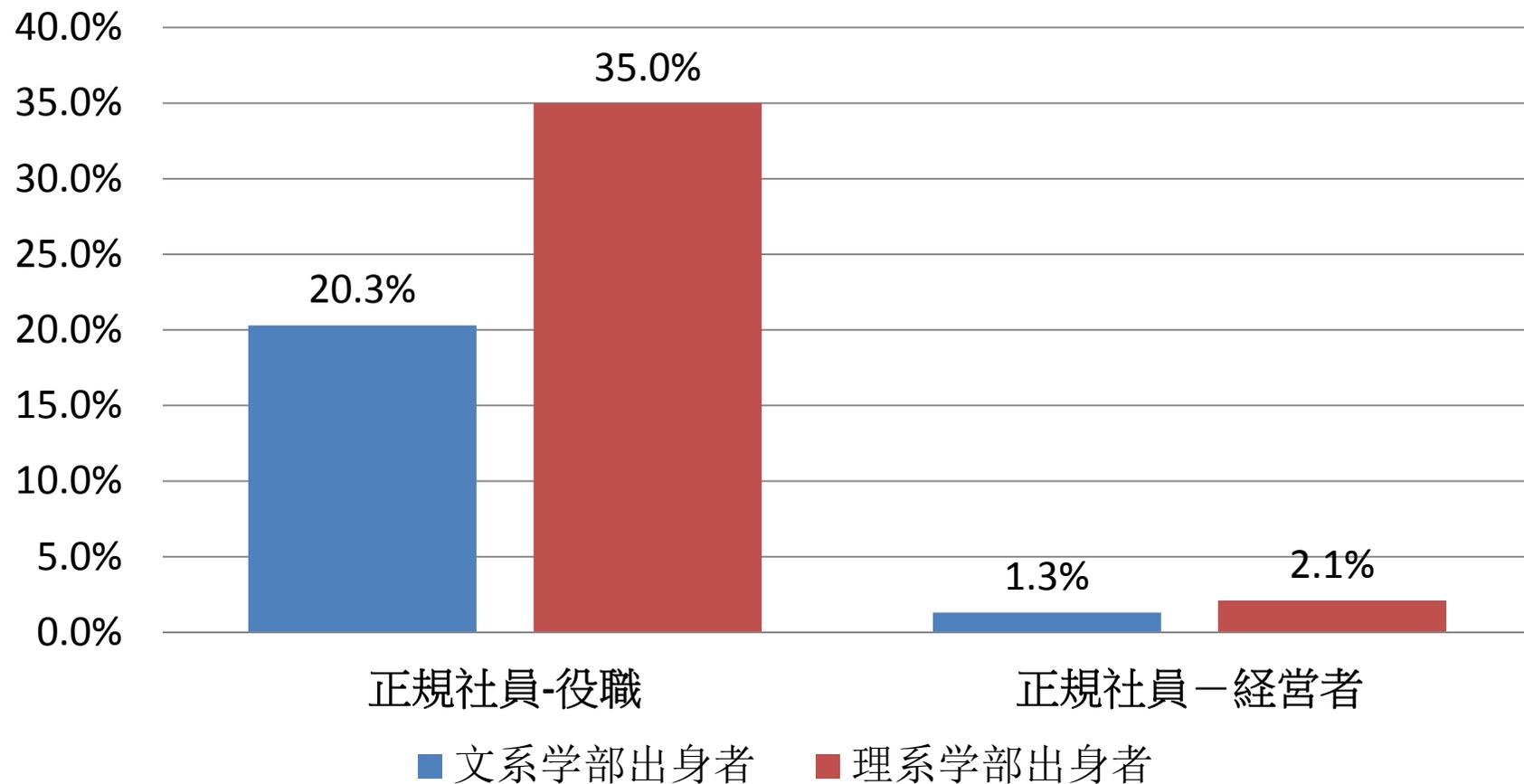
プロジェクト	慶應義塾大学「日本家計パネル調査(JHPS)」
実施時期	2010年1月(第2回調査)
調査方法	留置調査を主体とする
調査対象者	第1回調査の調査対象者4022サンプル
有効回答数	3470サンプル
回収率	86.3%
分析対象	大卒以上の学歴を持つ 調査の前年度において有所得の就業者 文系学部出身者か理系学部出身者かの識別が可能673サンプル

浦坂純子・西村和雄・平田純一・八木匡,
「文系学部出身者と理系学部出身者の年収比較—日本家計パネル調査(JHPS)データに基づく分析結果—」,
『日本の家計行動のダイナミズムⅧ 経済危機後の家計行動』, 第9章, pp.189-210, 慶應義塾大学出版会,2011

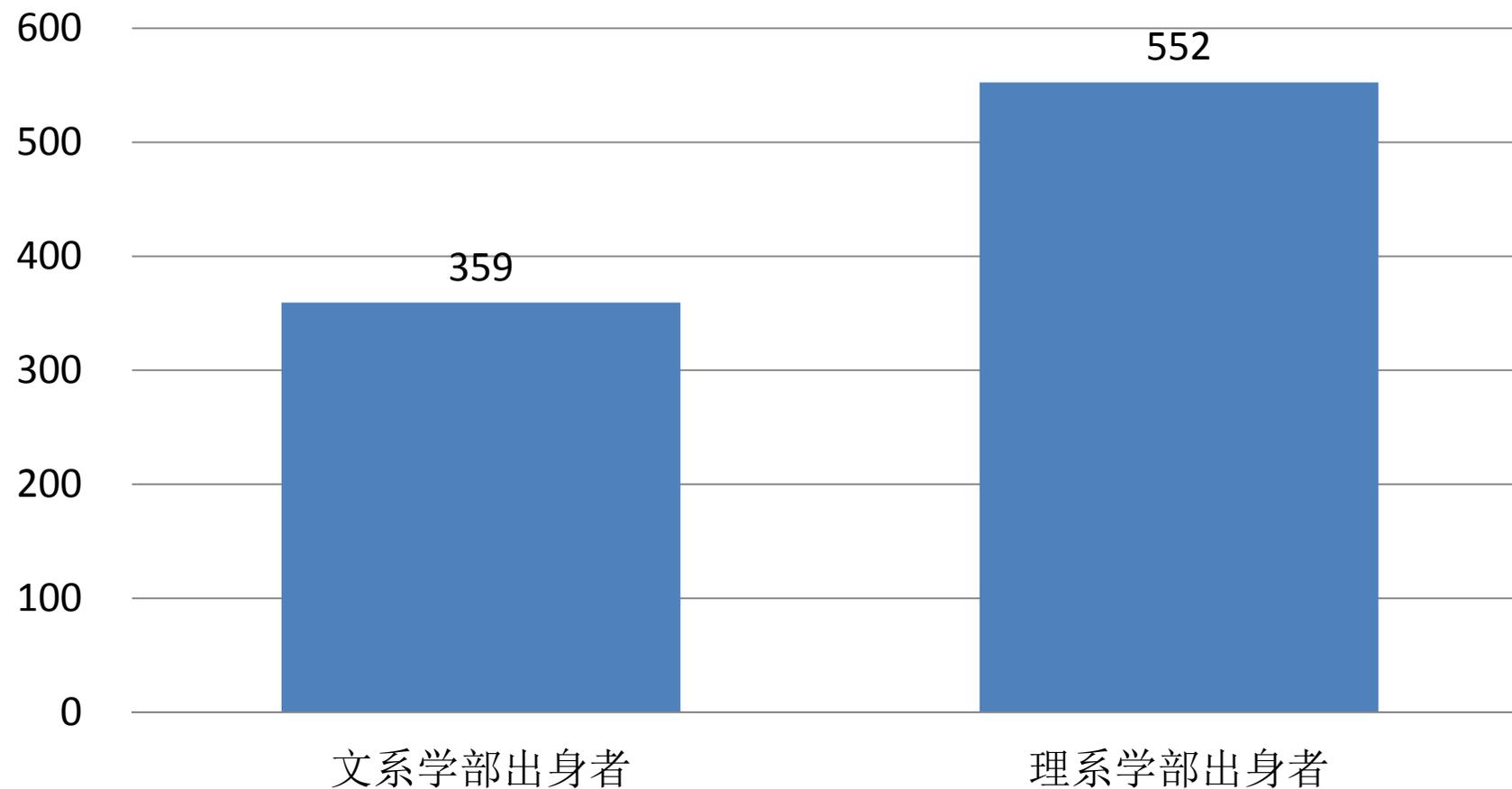
出身学部別正規社員・非正規社員



理系で高い役職者・経営者比率



出身学部別平均所得(万円)



- 理系学部出身者は、文系学部出身者よりも高所得である
- 理系学部出身者は、文系学部出身者よりも非正規社員比率が低く、役職者比率は高い

- 高等学校における理科学習が就業に及ぼす影響

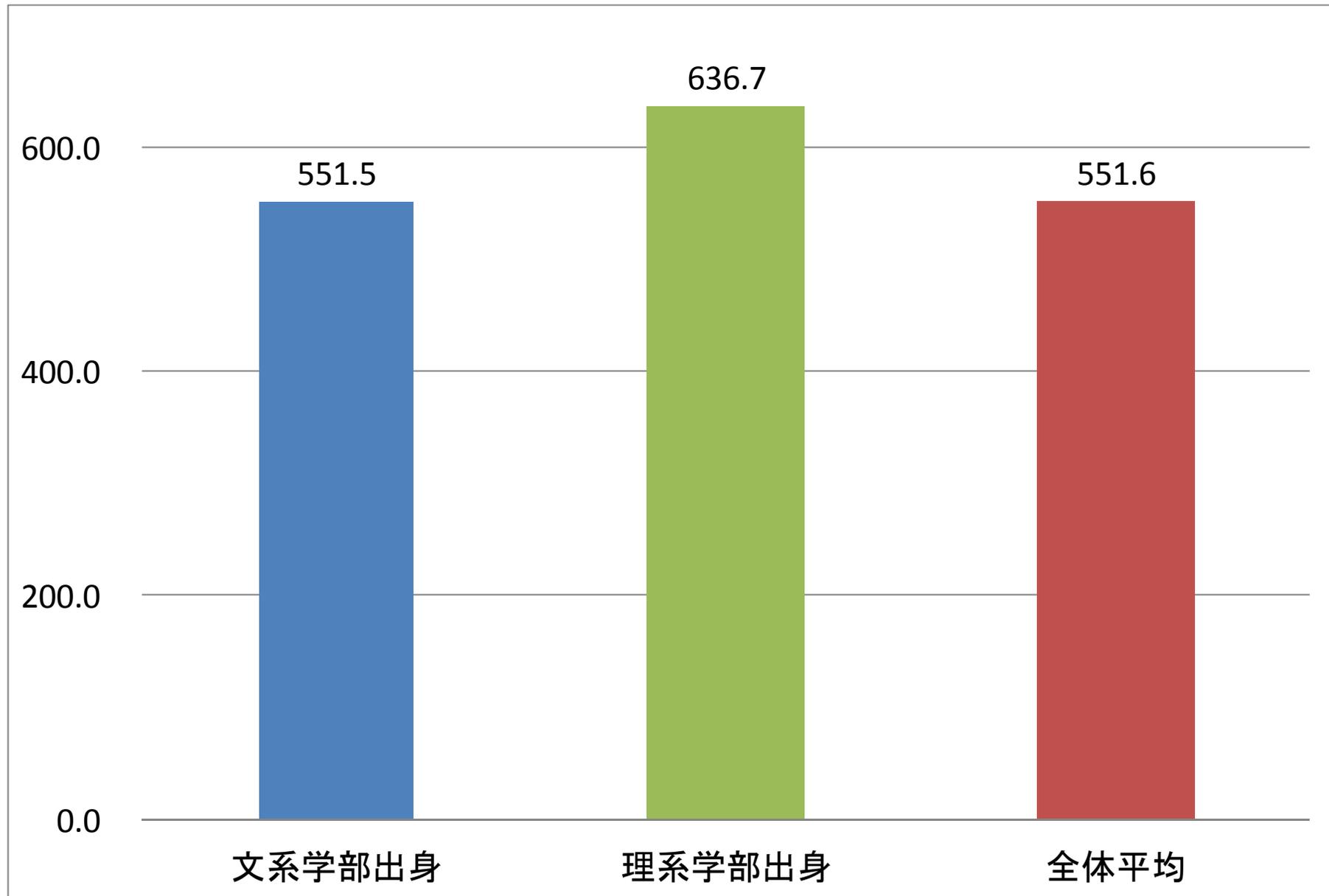
- サンプルを3分割(ゆとり以前、ゆとり世代、新学力観世代)して比較

Hirata, J., Nishimura K., Urasaka J. and Yagi T. ,“Annual Incomes of University Graduates and their Science Studies during High School Periods”,
Recent Advances in Modern Educational Technologies, edited by Hamido Fujita and Jun Sasaki,pp.42-45, WSEAS Press, April 2013

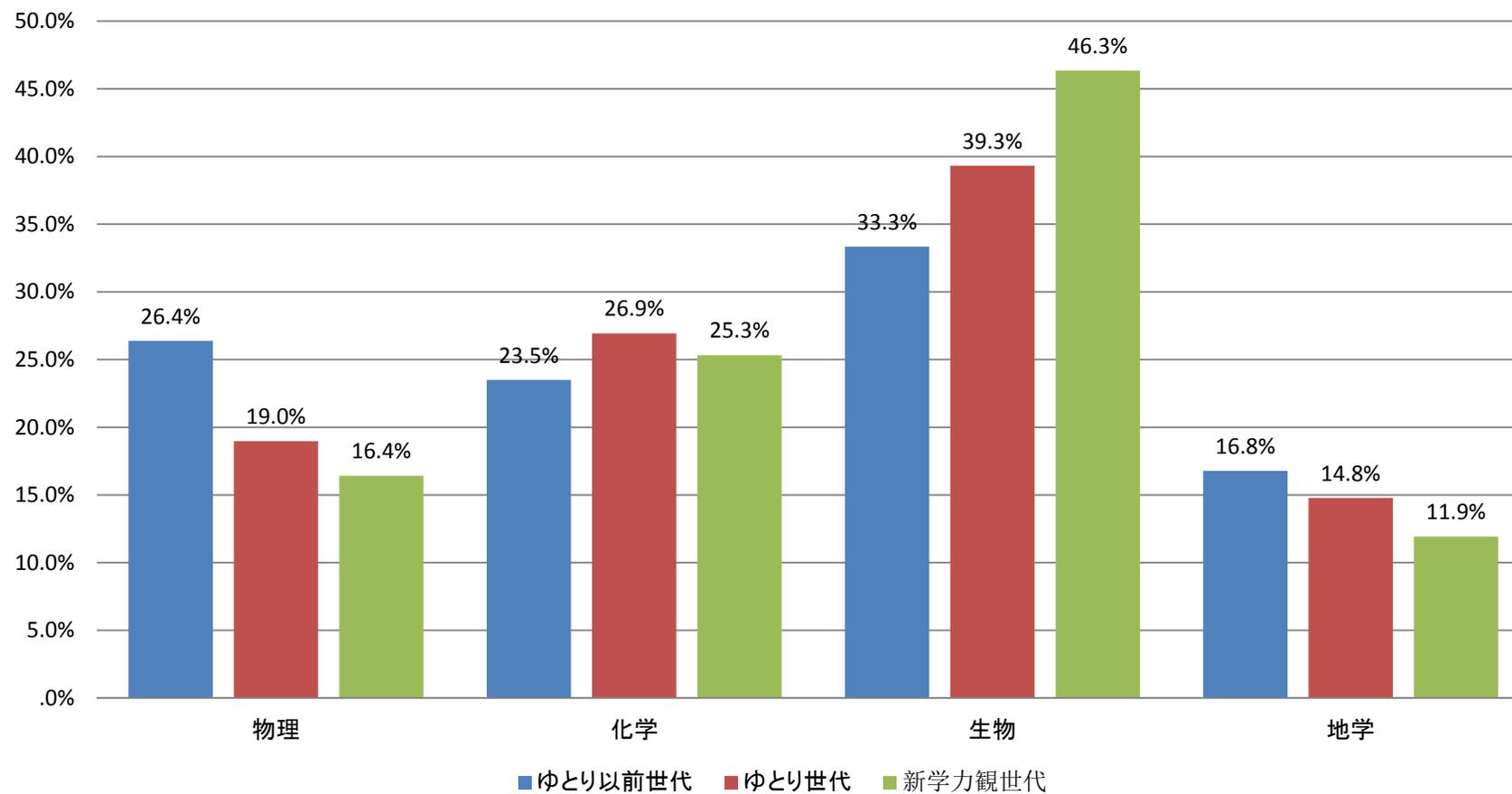
プロジェクト	独立行政法人経済産業研究所 「活力ある日本経済社会構築のための基礎的研究」
実施時期	2011年2月
調査方法	WEB調査(日経リサーチによる)
配信数	10万サンプル
有効回答数	11399サンプル(大卒以上の学歴を持つサンプルのみ) 文系学部7879サンプル・理系学部3456サンプル・ 文理不明64サンプル
分析対象	有所得の就業者9987サンプル 文系学部6726サンプル・理系学部3207サンプル・ 文理不明54サンプル

キーワード	改訂 (高校)	実施 (高校)	該当者	該当 サンプル数	該当 サンプル数 (就業者)
	1955年12月	1956年度	1940年4月生～	5016 (ゆとり 以前)	4520
教科学習の 系統性	1960年10月	1963年度	1947年4月生～		
教育課程の 現代化	1970年10月	1973年度	1957年4月生～		
ゆとりと 充実	1978年8月	1982年度	1966年4月生～	4440 (ゆとり)	3771
新学力観	1989年3月	1994年度	1978年4月生～	1943 (新学力観)	1696
生きる力	1999年3月	2003年度	1987年4月生～	0	0

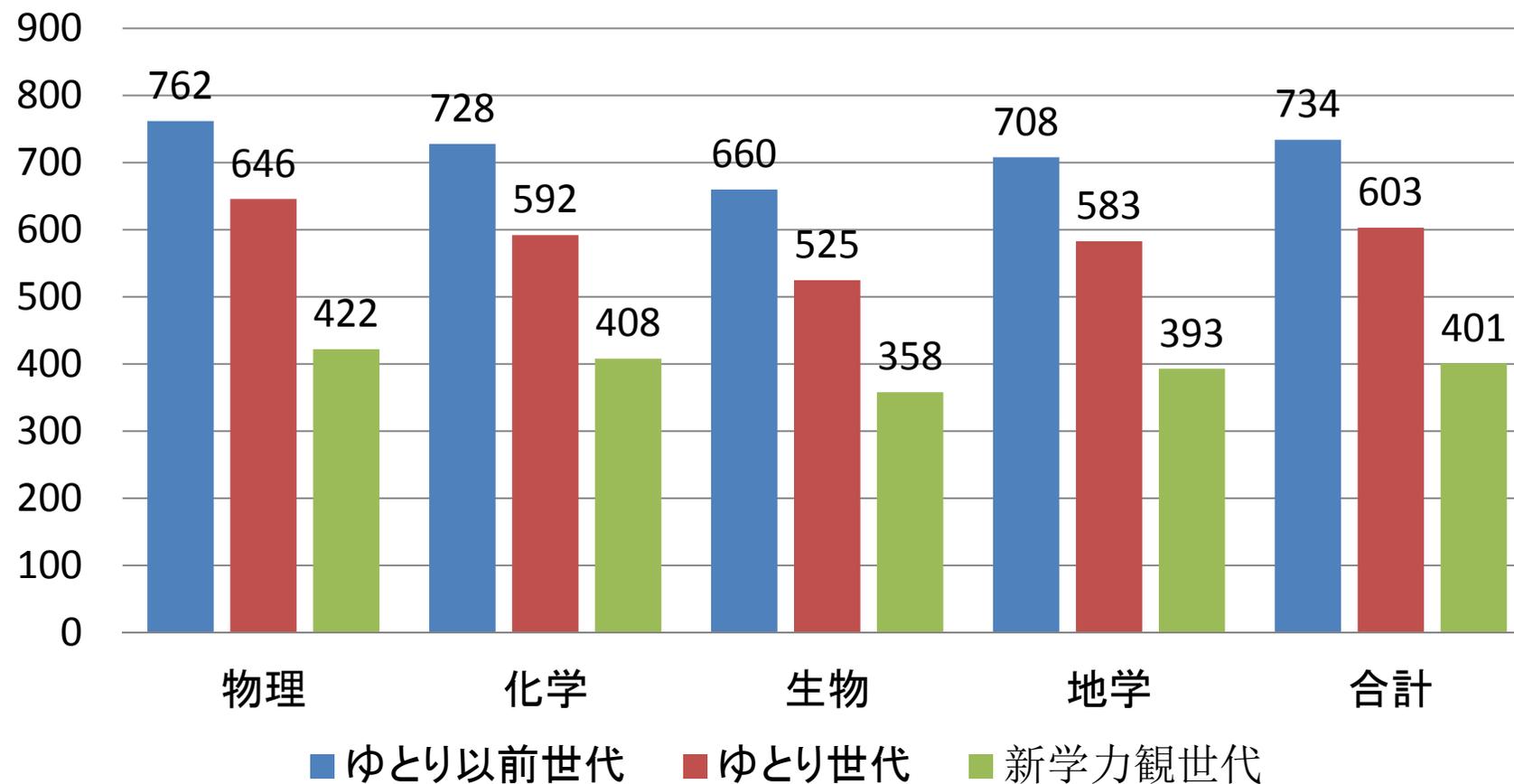
文系・理系学部出身別平均所得(万円)



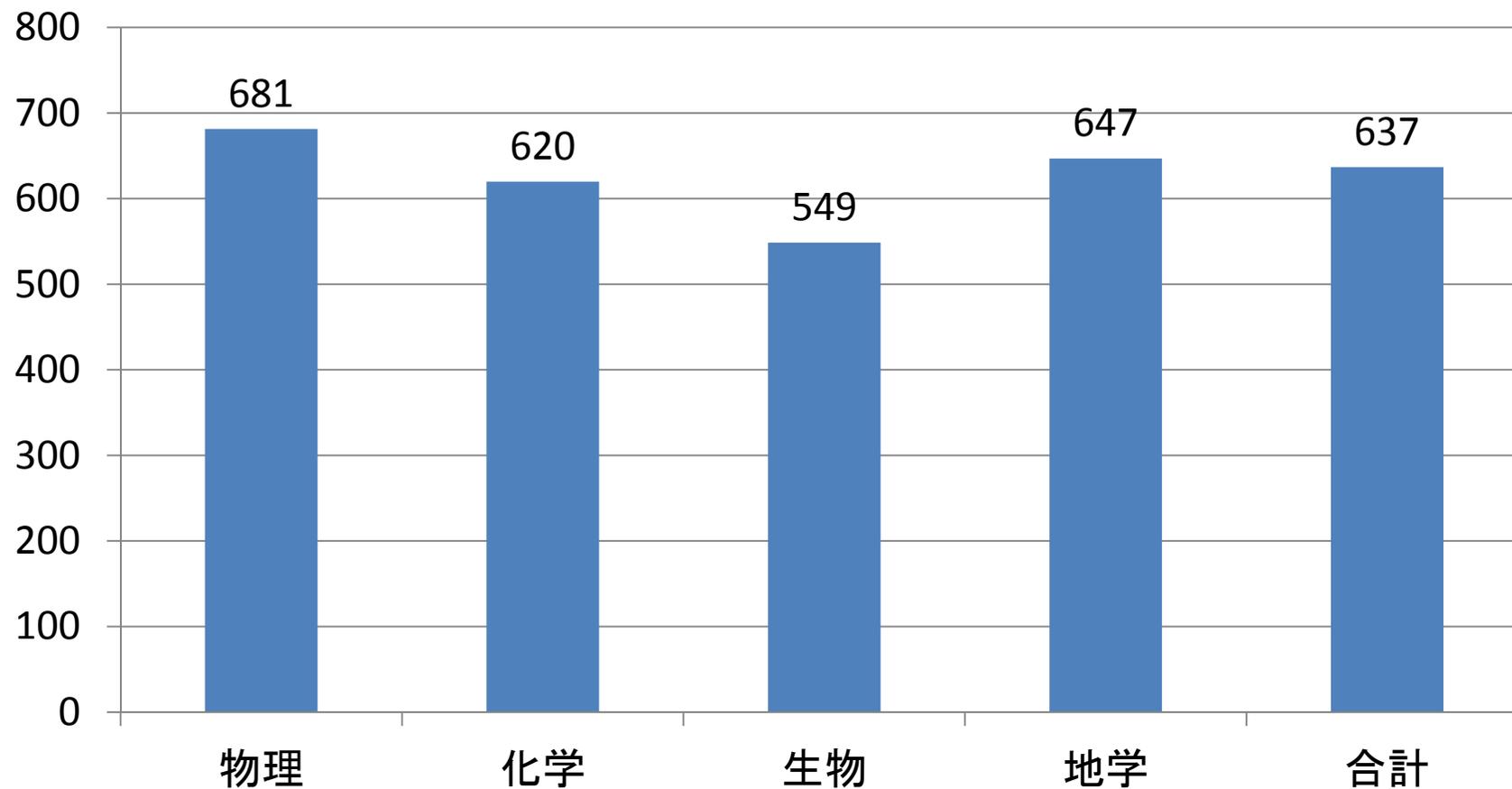
理科の得意科目(就業者)



理系学部出身者の理科の得意科目別 平均所得(世代別:万円)



理系学部出身者の理科の得意科目別平均所得(万円)



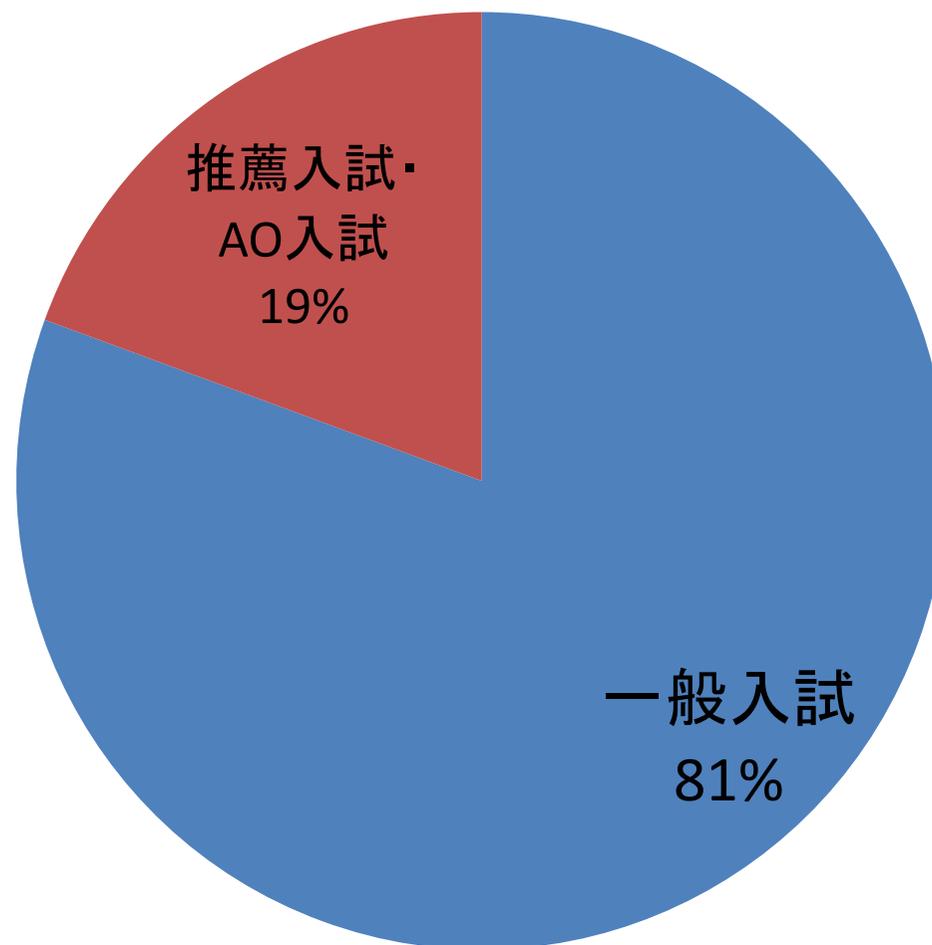


- 大学入学者選抜での学力試験の有無



- 多様化入試は何をもたらすか

- 大学入試制度の多様化が始まった1980年代半ばに大学入学者(45歳以下の就業者)
- 学力考査を課す入試制度入学者:
80.58%の5162人
- 学力考査を課さない入試制度(一般推薦・AO)による入学者:
19.42%の1244人
- 注: 海外大学出身者, 帰国生徒入試および附属・系列高校からの内部推薦入試による入学者などの分析から除外したサンプルが7.7%の531人となっている.



学力考查有無別平均所得(45歳以下就業者)

